

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	江北町立江北中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・学校評価保護者アンケートの「お子さんが本校の生徒でよかったと思いますか」では、昨年度より1ポイント増加し82％の保護者が肯定的な回答であった。学校評価生徒アンケートの「あなたは、学校が楽しいですか」では、昨年度より6ポイント増加し87％、「あなたは、学校生活の中で相談できる人（先生、スクールカウンセラーや友達など）いますか」では、昨年度より3ポイント増加し84％の生徒が、友人関係や進路・学習面など、さまざまな面で不安を抱えながらも肯定的な回答であった。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね保護者の理解を得ていると考えられ、また生徒にとっても満足できる教育活動ができたと考えられる。しかし、「学校が楽しい」と肯定的に答えていない生徒が、昨年度より減少したものの約15％いるので、調査し改善を図っていく。 ・学校評価生徒アンケート「先生方は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度より1ポイント増加し92％、学校評価保護者アンケート「学校は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度より8ポイント増加し85％であった。1、2年生の佐賀県小・中学校学習状況調査でも、10教科中7教科県の正答率を下回る結果から、具体的な学力向上への取組実践が課題である。
------------------	---

2 学校教育目標	自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成
----------	-----------------------

3 本年度の重点目標	①基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業の工夫・改善を図る。 ②道徳教育及び人権教育を推進・充実させ、心豊かな生徒の育成を図る。 ③生徒指導の三機能を充実させ、自己指導能力の育成を図る。 ④特別支援教育の推進を図る。 ⑤小学校や家庭・地域と連携した教育実践を図る。 ⑥業務の適正化を図り、教育効果を上げる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80％以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの一覧表を作成し、教職員間で共有を図った。 ・マイプランの成果指標を達成した教職員は、72％だった。	C	・成果指標を達成できていない。 ・マイプラン成果指標を達成できなかった部分は、原因等を丁寧に精査し、次年度達成に向けて取り組んでいただきたい。 ・教員間の研修・情報伝達・勉強会等を引き続きお願いしたい。
	○自ら学びに向かう姿勢の育成	「授業に対して意欲的に取り組めた」「自分の考えをもつことができた」に肯定的な回答をする生徒の割合を80％以上。	・1時間完結型の授業を実践する。主体的な学びを促すために、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を行う。 ・生徒による授業アンケートを学期に1回実施し、授業改善を行う。	B	・生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に活用した。 ・「授業に対して意欲的に取り組めた」「自分の考えをもつことができた」に肯定的な回答をする生徒の割合は、88％だった。生徒のアンケート結果は成果指標を達成しているが、教師が見る生徒の授業の様子からは課題もあると考える。	B	・授業に対して意欲的に取り組めたことは評価できるが、学校全体の生徒の学力向上についてはどうだったのか。 ・計画⇒実践⇒評価の過程で、学びの育成改善への糸口を探したい。自ら学びに向かう姿勢の育成を図る。 ・成果指標は達成していますが、割合が88％のわりには学習状況調査の結果が伴っていないのではないかと思います。それは、生徒の授業の様子から見える課題につながるということでしょうか。R2年度の結果は、10教科中7教科が県の正答率を下回っていたので、比較すると今年度の学力は向上していると考えていいと思います。 ・生徒がやる気を出せるような教員・生徒間のコミュニケーションの充実を図っていただきたい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全職員で道徳教育に取り組み、深い学びにつながる考え、議論する道徳の授業を実践する。 ○道徳の授業参観や公開授業を年3回以上行う。 ○自他を尊重する態度を称賛する場を多く設定する。	・人権集会や平和集会の実施 ・講師を招聘しての研究会を実施し、授業づくりについての共通理解を図る。 ・学年を中心に授業研究会を実施する。 ・褒め短歌の実践、帰りの会でのハートタイムや道徳コーナーを設定する。	B	・具体的取組の中で講師を招聘しての研究会は実施できなかったが、その他の具体的取組は計画通り実施することができた。 ・道徳の授業参観や公開授業を3回行った。 ・「いじめや差別を許さず、相手の気持ちを考えて生活しているか」に肯定的な回答をした生徒の割合は、96％だった。	B	・道徳の授業の重要性を大切にしてほしい。 ・残り4％の生徒が改善されるよう粘り強く取り組んでいただきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員95％以上 ○毎月アンケートの実施	・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。 ・学校生活に関するアンケートを毎月実施する。	B	・学校生活アンケートは毎月実施して、いじめの早期発見に努めるとともに、講師を招いてのいじめ防止等に関する研修会を実施した。 ・「組織的対応ができている」と回答している教員は、89％だった。	B	・校長の意図のもと、組織体が機能しておれば、早期発見し対応ができると考えたい。情報の共有化を図り、未然防止と早期対応を図る。 ・教員の回答は成果指標を達成していますが、③の生徒の回答から考えると、生徒への対応は評価できるのではないかと思います。 ・最近、中学校でのいじめ事案をよく耳にします。小さないじめが大きないじめに発展するかもしれません。早期発見のシステムの再考をお願い致します。 ・休み時間等を使った対応は非常に良い取り組みだと考える。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80％以上	・職業調べ・職場体験・進学説明会など学年ごとの体験活動を踏まえて職業観や正しい進路選択の意識や態度を養い、進路学習を充実させる。 ・「キャリアパスポート」を活用し、将来の進路について考えさせる機会を設定する。	B	・職業調べや進学説明会は実施することはできたが、コロナ禍で職場体験が実施できなかった。コロナ禍においても職業観や正しい進路選択の意識や態度を養うための進路学習を工夫していく必要がある。 ・生徒アンケートで「将来の夢や目標を持っている」と回答をした生徒の割合は、74％だった。	B	・コロナ禍の中、生徒が将来の夢や職業について考える機会が減っていますね。先生方の工夫をお願いします。
	○教育相談の充実	○日頃の観察や毎月のアンケート、学活ノート等から、トラブルを早期に発見・把握し、適切に対応する。	・教育相談週間を年に2回設定し、全職員で生徒の相談にあたる。 ・SCやSSWと連携し、生徒の実態や担任の思いに応じた対応を行う。 ・i-check分析の研修会を実施する。	B	・教育相談週間を年間2回設定できた。 ・アンケートの実施、学活ノートの確認、休み時間や昼休みの臨場指導等を通して、トラブルの早期発見・把握に努めた。 ・気になる生徒の対応については、SC、SSW、関係機関と連携して進めることができた。 ・生徒アンケートで「学校の中で相談できる人がいる」と回答した生徒の割合は、84％だった。	B	・教師の温かい言葉かけで、生徒も教師も元気を回復し、学校生活を充実させたい。カウンセリング機能を高め、教育相談の機会を活用する。 ・「相談が苦手な生徒」もいるため、教員側からのアプローチも引き続きお願いしたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95％以上 ○保護者への働きかけを行い、朝食喫食率95％以上	・生徒会給食部の活動と連携し、「食」の大切さについて考える活動を行う。 ・栄養教諭と連携を図り、各学級、年1回の食の授業を実践する。	B	・生徒会給食部で「食」の大切さを考える「給食感謝集会」や栄養教諭による食についての講話を実施することができた。 ・「健康に食事は大切である」と回答した生徒の割合は98％、「朝食を食べている」と回答した生徒の割合は92％であった。	B	・保護者が朝食を用意するのが難しい場合は、生徒が用意できる朝食メニューを栄養教諭が教えてはどうかと思います。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校行事の精選 ・ICTを活用した業務の効率化	B	・12月までの時間外勤務時間の平均は約46時間で、上限を少し超えている。 ・行事の精選や「desknet's NEO」利用の推進により事務処理時間を確保し、時間外在校時間の縮減に努めた。	B	・指導者も健康に留意し、学校教育活動を充実させたい。前向きで、充実した学校行事を工夫する。 ・職務上、時間外勤務が多いのはやむを得ないかもしれないが、教員の心身のケア・サポートを引き続きお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小・中連携教育	○小学校との連携推進	○小学校の様子や状況の理解が進んだと回答する教師80％以上	・小学校との合同の研修会の実施 ・教務、生徒指導、教育相談、特別支援教育について、小学校との情報共有の場の設定	C	・月行事の共有、お知らせメールの登録、情報交換は行ったものの、合同研修会や参集しての場の設定はできず、連携を図ることができていない。 ・コロナ禍でも推進できる小中連携をあり方を検討していく必要がある。	C	・学校教育の連携は、重点化し進化させたい。小中連携重点項目を検討する。 ・コロナ禍での対応方策を日々改善していただきたい。
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○個別の指導計画、教育支援計画を100％作成する。 ○特別支援教育に関する校内研修会を2回実施する。	・校内支援体制の強化を図り、個別の指導計画、教育支援計画に関する研修会を行い、作成する。	B	・個別の指導計画、教育支援計画を作成できたが、その活用について検討していく必要がある。 ・西部教育事務所のバックアップ要請を行い、特別支援学級担任の研修会も実施した。	B	・来年度から増加になる様ですが、よろしく願います。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校評価保護者アンケートの「お子さんが本校の生徒でよかったと思いますか」では、昨年度同様92％の保護者が肯定的な回答であった。学校評価生徒アンケートの「あなたは、学校が楽しいですか」では、昨年度より3ポイント減少し84％、「あなたは、学校生活の中で相談できる人（先生、スクールカウンセラーや友達など）いますか」では、昨年度同様84％の生徒が、友人関係や進路・学習面など、さまざまな面で不安を抱えながらも肯定的な回答であった。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね推進できていると考えられる。しかし、「学校が楽しい」と肯定的に答えている生徒が、昨年度より減少しているので、コロナ禍でも魅力ある教育活動ができるように工夫改善していく必要がある。 ・学校評価生徒アンケート「先生方は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度より1ポイント増加し93％、学校評価保護者アンケート「学校は、わかる授業に努めていると思いますか」でも、昨年度より1ポイント増加し86％であった。12月実施の1、2年生の佐賀県小・中学校学習状況調査では、県の正答率を下回る教科もあることから、学力向上への具体的な取組を検討し実践していく必要がある。
----------------	--